

平成30年度松阪花菖蒲展示会のご案内

2018年6月5日
松阪三珍花保存会

1. 松阪三珍花保存会「平成30年度松阪花菖蒲展示会」

日時 2018年6月8日(金)～6月12日(火) 午前9時～午後4時

場所 松阪市殿町1563 旧松阪公民館前庭

(お問い合わせ先 松阪市幸公民館 電話0598 23-9549)

展示内容 各種松阪花菖蒲 5号鉢 約60鉢および 切り花

2. 松阪三珍花保存会有志による「松阪花菖蒲展示」

日時 2018年6月14日(木)～6月17日(日)

(展示日時、時間、展示内容は展示場所により異なる場合がございます。)

展示場所

①松阪市歴史民俗資料館 ②本居宣長記念館

③松阪商人の館 ④原田二郎旧宅

⑤松阪花菖蒲発祥の地 松阪市殿町1249 吉井さん宅

展示内容

各種松阪花菖蒲 5号鉢 5～10鉢

<おことわり>

今年の花菖蒲の開花は早く、松阪三珍花保存会で保存を目的に栽培しています鈴の森公園の花菖蒲園は開花が5月初旬よりあり現在ではピークが過ぎたようです。一方、松阪花菖蒲展の出展品は会員が鉢栽培で作ったものです。会員の栽培条件(温度、日照、肥料など)の差によるものか例年に比べ開花時期に大きな差があり、今年の出展数大幅に減少しました。

そこで、初めての試みとして露地栽培の松阪花菖蒲を切り花として展示する事にしました。ご理解いただき、繊細さと情緒性などが特色とされる松阪花菖蒲をお楽しみ下さい。

松阪花菖蒲 (Matsusaka Iris)

松阪花菖蒲は一般には伊勢花菖蒲(伊勢系古花)と呼ばれ、江戸系花菖蒲、肥後系花菖蒲と共に日本を代表する古典園芸植物の一つです。

松阪花菖蒲の起源は松坂城下・殿町に住む徳川紀州藩士であった吉井定五郎(1776年～1618)がノハナショウブから品種改良されたのが始まりと伝えられています。子息吉井政之助(二代目定五郎)孫の吉井吉之丞がさらに多くの品種を作出した。その後同町の野口才吉、新座町の長林堅三郎等に分譲されその後、久保町の乾達二、松阪の服部栄次郎、津の伊関健次郎、吉川万吉等が栽培、改良に努めた。乾達二歿後乾夫人から遺品として久保町の青木清次郎が全部引き継ぎ戦中・戦後の厳しい食糧事情の中品種保存に情熱を傾けた。岡村金蔵は長林堅三郎の指導を受け松阪三品(松阪撫子、松阪花菖蒲、松阪菊)の品種保存、栽培に情熱を傾け、当時日本を代表する園芸誌に「伊勢撫子に就いて」(昭和6年12月号)をはじめ3品につき3回にわたり執筆した。戦後、三重大学の富野耕治博士らにより本種の紹介や研究が精力的になされ、更に新花も多く作出された。

1952年(昭和27年)に三重県教育委員会により松阪花菖蒲は伊勢花菖蒲として伊勢菊(松阪菊中輪)、伊勢撫子(松阪撫子)とともに、三重県の天然記念物に指定されました。

1971年(昭和46年)1月松阪三珍花の会(現、松阪三珍花保存会)が発足し、毎年6月に旧松阪公民館で松阪花菖蒲展を行うなどの活動を続けています。

松阪三珍花のホームページ

<http://www.matsusaka-sanchinka.jp/>

ご覧ください。